

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	國學院大學北海道短期大学部
設置者名	学校法人國學院大學

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	国文学科	夜・通信	11	42	0	53	7	
	総合教養学科	夜・通信		42	8	61	7	
	幼児・児童教育学科	夜・通信		6	66	83	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

刊行物等名称：「実務経験のある教員等による授業科目の一覧」、ホームページに掲載 入手方法：学生全員に紙媒体で配布するとともに、下記 URL より入手可能。 https://portal.kokugakuin.jp/uprx/up/bs/bsa001/Bsa00101.xhtml

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 理事（役員）名簿の公表方法

--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	國學院大學北海道短期大学部
設置者名	学校法人國學院大學

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・新年度開講授業科目を各学科専任教員が11月から検討し1月までに決定。 【各学科において開設授業科目の変更(新規・追加等)を検討し、新たなカリキュラムによる年間の授業計画をたてる。】 ・新年度開講授業科目の内容を科目担当教員に連絡し、シラバス作成を依頼2月末までに事務局教務宛提出依頼。 ・提出されたシラバスを各学科専任教員がチェックし、修正等を行い完成後、データをPDFにし新年度授業開始前にホームページに掲載。 <p>※すべての学科において同様の取扱いをしている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://portal.kokugakuin.jp/uprx/up/bs/bsa001/Bsa00101.xhtml
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>成績評価の方法は、試験・レポート・実技・実習を点数評価し、学生の学修成果に基づき、成績を5段階評価【S・A・B・C・D】としている。単位認定の基準はC以上としている。</p> <p>また、シラバス内にて、各評価基準を明確に示している。履修指導に関しても、担当教員による指導を行っている。</p> <p>※すべての学科において同様の取扱いをしている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学生の成績が、学生の所属する学科の中で、どの位置にあるかを把握することができるよう、客観的な指標である GPA を設定し、学生ガイドブック内に記載し入学生全員に配布している。</p> <p>授業時における学習意欲や、小テストなどの各種評価、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学生の学修成果を判定し、その結果を基準点に換算した上で成績 (S : 100~90、A : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、D : 59~0) を判定している。</p> <p>$GPA = (\text{対象科目の} GPA \times \text{単位数}) \text{の総和} \div \text{単位数の合計}$</p> <p>GPA に関しては、学生ガイドブック内に指標の基準の明記を行っている。</p> <p>また、導入されているシステムにおいて、個人の成績分布が把握できる仕組みとなっている。</p> <p>※すべての学科において同様の取扱いをしている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>学生ガイドブック (入学時全員に配布)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>ホームページに掲載されている各学科のディプロマ・ポリシーを基に (以下参照)、学生の修得単位数等を踏まえて卒業の認定を行う。</p> <p>(国文学科)</p> <p>建学の精神に基づき、古代から現代にいたる我が国の文学、言語、伝承、伝統文化及び歴史を、体系的に学習・研究することによって、社会や物事の本質をとらえ、創造的に思考し、我が国のみならず国際社会及び現代社会に広く貢献できる人材を育成する。</p> <p>この目的を達成するために編成された教育課程の体系的な履修を通し、所定の単位を修得し、一定の学習成果を修めた学生に対し学位を授与する。</p> <p>(総合教養学科)</p> <p>建学の精神に基づき、英語教育を基礎に、哲学、法律学、経済学などを広く専門的に学ぶことを通して、多元的な価値観と多角的な視野を備え、多様化する国際社会及び現代社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>この目的を達成するために編成された教育課程の体系的な履修を通し、所定の単位を修得し、一定の学習成果を修めた学生に対し学位を授与する。</p> <p>(幼児・児童教育学科)</p> <p>建学の精神に基づき、豊かな感性を培い、人間性を陶冶し、我が国のみならず広く世 界の文化や伝統を多角的に学び、初等教育における実践的指導力を備え、地域福祉にも積極的に貢献できる人材を育成する。</p> <p>この目的を達成するために、各コースが設置する教養科目及び専門科目による教育課程の体系的履修を通し、所定の単位を修得し、一定の学習成果を修めた学生に対し学位を授与する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>刊行物等名称 : 「学生ガイドブック」。</p> <p>入手方法 : 入学生全員に配布する。</p> <p>https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/policy.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/pdf/jikotenken3.PDF 自己点検評価報告書(刊行物) 全国大学・短期大学に配布

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方 https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/wp-content/uploads/2021/02/hyoka.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国文学科																													
教育研究上の目的(公表方法: https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/) (概要) 古代から現代にいたる我が国の文学、言語、伝承・伝統文化及び歴史を、体系的に学習・研究することによって、社会や物事の本質をとらえ、創造的に思考し、我が国のみならず国際社会及び現代社会に広く貢献できる人材を育成することを目的とする。																													
卒業の認定に関する方針(公表方法: https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/) (概要) 建学の精神に基づき、古代から現代にいたる我が国の文学、言語、伝承、伝統文化及び歴史を、体系的に学習・研究することによって、社会や物事の本質をとらえ、創造的に思考し、我が国のみならず国際社会及び現代社会に広く貢献できる人材を育成する。この目的を達成するために編成された教育課程の体系的な履修を通し、所定の単位を修得し、一定の学習成果を修めた学生に対し学位を授与する。																													
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/) (概要) 古代から現代にいたる我が国の文学、言語、伝承、伝統文化及び歴史を、体系的に学習・研究することができるように教育課程を編成している。 1年次は、基礎科目を中心とし、基礎学力を養成し、専門領域全体を理解させる。2年次においては、展開科目を中心とし、演習・創作等の科目やより高度な専門科目において、専門的な知見と実践力を養う。集大成として、2年次には、卒業論文を完成させる。 以上の教育課程を通じて、社会や物事の本質をとらえ、創造的に思考し、我が国のみならず国際社会及び現代社会に広く貢献できる人材を育成する。																													
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/) (概要) 国文学科では、古典を含めて日本語に関する基礎学力を有し、国文学・文芸創作・伝統文化への関心を人一倍抱き、自己を高める努力を厭わない人材を求めている。よって以下の観点から入学者の選考を行う。 学科名：国文学科◎：特に重視する ○：重視する																													
	選抜種別																												
アドミッションポリシー	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学校推薦型選抜</th> <th>総合型選抜</th> <th>学科・コース特色型選抜</th> <th>ありす会・社会人・法人傘下</th> <th>併願型選抜</th> <th>共通テスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 日本語に関する基礎学力を有している。</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>2 国文学・文芸創作・伝統文化への関心を人一倍抱いている。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td></td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 自己を高める努力を厭わない。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td></td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		学校推薦型選抜	総合型選抜	学科・コース特色型選抜	ありす会・社会人・法人傘下	併願型選抜	共通テスト	1 日本語に関する基礎学力を有している。	○	○	◎	○	○	◎	2 国文学・文芸創作・伝統文化への関心を人一倍抱いている。	◎	◎		◎	○		3 自己を高める努力を厭わない。	◎	◎		◎	○	
	学校推薦型選抜	総合型選抜	学科・コース特色型選抜	ありす会・社会人・法人傘下	併願型選抜	共通テスト																							
1 日本語に関する基礎学力を有している。	○	○	◎	○	○	◎																							
2 国文学・文芸創作・伝統文化への関心を人一倍抱いている。	◎	◎		◎	○																								
3 自己を高める努力を厭わない。	◎	◎		◎	○																								

学部等名 総合教養学科							
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/ ）							
<p>（概要）</p> <p>英語教育を基礎に、哲学、法律学、経済学などを広くかつ専門的に学び、多元的な価値観と多角的な視野を備え、多様化する国際社会及び現代社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p>							
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/ ）							
<p>（概要）</p> <p>建学の精神に基づき、英語教育を基礎に、哲学、法律学、経済学などを広く専門的に学ぶことを通して、多元的な価値観と多角的な視野を備え、多様化する国際社会及び現代社会に貢献できる人材を育成する。この目的を達成するために編成された教育課程の体系的な履修を通し、所定の単位を修得し、一定の学習成果を修めた学生に対し学位を授与する。</p>							
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/ ）							
<p>（概要）</p> <p>英語力を基礎に、多元的な価値観と多角的な視野を備えた人材を育成することを目指しているが、そのために、学科の必修科目として、いくつかの英語関連の科目及び学科の理念を体現するものとして、共通テーマについて教員が自らの専門領域の視点からそれぞれ展開する科目、さらに情報処理関連の科目を配当し、選択科目として、本学科の教育内容上の柱をなす5領域に関連した専門科目を開講している。</p> <p>こうした多様な分野の内容について学ぶなかで、多角的な視点を自らのものとすると同時に、自分の柱とすべき専門分野についても自覚した、多様化する国際社会及び現代社会に貢献できる人材を育成することを目指して教育課程を編成している。</p>							
入学者の受入れに関する方針（公表方法：）							
<p>（概要）</p> <p>総合教養学科では、外国語文化・哲学・法律学・経済学・情報技術などを幅広くかつ専門的に学ぶとともに、多元的な価値観と多角的なものの見方や考え方を身につけ、自ら考え、判断するとともに行動する力を培うことを目指す人材を求めている。よって、以下の観点から入学者の選考を行う。</p> <p>学科名：総合教養学科◎：特に重視する ○：重視する</p>							
				選抜種別			
アドミッションポリシー		学校推薦型選抜	総合型選抜	学科・コース特色型選抜	ありす会・社会人・法人傘下	併願型選抜	共通テスト
1	さまざまな分野に関心のある人。	◎	◎	○	◎	○	○
2	さまざまな分野を学ぶことを通して、自分ももっとも関心を持つ分野を見つけ深めたい人。	◎	◎	◎		○	○
3	さまざまな分野を学ぶことで自分が関心をもっている分野をより強固なものにしたい人。	◎	◎	○	◎	◎	◎
4	将来、社会で活躍するための複数の分野に広がる知識とそれを運用する英語と情報のスキルを	◎	◎	○			

身につけたい人。							
----------	--	--	--	--	--	--	--

学部等名 幼児・児童教育学科
教育研究上の目的 (https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/)
(概要) 豊かな感性を培い、人間性を陶冶し、我が国のみならず広く世界の文化や伝統を多角的に学び、初等教育における実践的指導力を備え、地域福祉にも積極的に貢献できる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/)
(概要) 建学の精神に基づき、豊かな感性を培い、人間性を陶冶し、我が国のみならず広く世界の文化や伝統を多角的に学び、初等教育における実践的指導力を備え、地域福祉にも積極的に貢献できる人材を育成する。この目的を達成するために、各コースが設置する教養科目及び専門科目による教育課程の体系的履修を通し、所定の単位を修得し、一定の学習成果を修めた学生に対し学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/)
(概要) 幼児保育コース 1 年次に教養科目において、日本文化・伝統、またその根幹をなす美しく正しい日本語、日本人としての所作等について学ぶ。また、幼稚園教諭・保育士の理論系科目の習得を通して、専門領域についての理解を進める。2 年次には専門科目の演習等を通じて専門的知識と実践力をより深めつつ、地域との交流を通して社会に貢献する積極的姿勢及び徳性を涵養する。 児童教育コース 教師に必要な資質の育成を図るため、基本的には、各教科の概論の理解、教科指導力の育成、専門性を高める教職教養と大学生として身につけるべき一般教養の観点から教育課程を編成している。この教育課程に則り、教師に必要な教科の知識と技能及び児童理解に立った指導技術、日常の学校生活と関連した教職に関する専門的知識、心身ともに健全で教育に対する情熱溢れる人間性豊かな教師の育成をめざし、現場経験豊富な教員が個々の学生の状況に即した指導をする。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/policy/)

(概要)

幼児保育コース

保育教諭を目指す強い意志と熱意をもち、保育教諭としての知識や技能を学習成果として着実に身につけることができる人材を求めている。よって、以下の観点から入学者の選考を行う。

学科名：幼児・児童教育学科 幼児保育コース◎：特に重視する ○：重視する

アドミッションポリシー		選抜種別					共通テスト
		学校推薦型選抜	総合型選抜	学科・コース特色型選抜	ありす 会・ 社会人・ 法人傘下	併願型選抜	
1	高等学校で習得する基礎的な学力を身につけている人。	◎	○	◎	○	◎	◎
2	子供の保育・教育について強い関心を持ち、保育・教育における課題について深く考えることができる人。	◎	○	◎	◎	○	
3	豊かな表現力やコミュニケーション力を身につけている人。		◎				
4	思いやりがあり、子どもとの触れ合いを大切にし、地域社会に貢献しようとする意欲のある人。	◎			○		
5	心身ともに健康で、柔軟性や協調性をもち主体的・協働的に課題解決に取り組むことができる人。	◎	◎		◎	○	

児童教育コースでは、教師を目指す強い意志と熱意をもち、教師としての知識や技能を学習成果として着実に身につけることができる人材を求めている。よって、以下の観点から入学者の選考を行う。

アドミッションポリシー		選抜種別					共通テスト
		学校推薦型選抜	総合型選抜	学科・コース特色型選抜	ありす 会・ 社会人・ 法人傘下	併願型選抜	
1	高等学校で習得する基礎的な学力を身につけている人。	○	○	◎		○	◎
2	児童教育について強い関心を持ち、教育における課題について深く考えることができる人。	◎	◎		◎	◎	
3	豊かな表現力やコミュニケーション力を身につけている人。	○	○		○	○	
4	思いやりがあり、子どもとの触れ合いを大切にし、地域社会に貢献しようとする意欲のある人。	○	○		◎		
5	心身ともに健康で、柔軟性や協調性をもち主体的・協働的に課題解決に取り組むことができる人。	◎	◎		◎	◎	

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/disclosure/research/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人					—	3人
国文学科	—	1人	4人	人	人	人	5人
総合教養学科	—	4人	1人	人	1人	人	6人
幼児・児童教育学科	—	6人	2人	人	1人	人	9人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		73人					73人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/pdf/kyouin.PDF					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
令和2年度については、専任・兼任教員向けに遠隔授業についての研修を4回実施した。 [第1回] FD研修1 開催日：令和2年4月23日 [第2回] FD研修2 開催日：令和2年4月30日 [第3回] FD研修3 開催日：令和3年5月7日 [第4回] FD研修4 開催日：令和3年5月10日							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国文学科	85人	69人	81.2%	170人	165人	97.1%	-人	-人
総合教養学科	85人	82人	96.5%	170人	185人	108.8%	-人	-人
幼児・児童 教育学科	55人	47人	85.5%	110人	96人	87.3%	-人	-人
合計	225人	198人	88%	450人	446人	99.1%	-人	-人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国文学科	76人 (100%)	54人 (71.1%)	12人 (15.8%)	10人 (13.2%)
総合教養学科	78人 (100%)	71人 (91.0%)	5人 (6.0%)	2人 (3.0%)

幼児・児童教育学科	44人 (100%)	26人 (59.1%)	16人 (36.4%)	2人 (4.5%)
合計	198人 (100%)	151人 (76.3%)	33人 (16.7%)	14人 (7.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 北海道小学校教員、滝川市内及び北海道内の保育所・幼稚園 など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
国文学科	85人 (100%)	73人 (85.8%)	1人 (1.2%)	11人 (13.0%)	0人 (0%)
総合教養学科	85人 (100%)	76人 (89.4%)	1人 (1.2%)	8人 (9.4%)	0人 (0%)
幼児・児童教育学科	47人 (100%)	44人 (93.6%)	0人 (0%)	3人 (6.4%)	0人 (0%)
合計	217人 (100%)	193人 (88.9%)	2人 (0.1%)	22人 (10.0%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・新年度開講授業科目を各学科専任教員が11月から検討し1月までに決定。【各学科において開設授業科目の変更(新規・追加等)を検討し、新たなカリキュラムによる年間の授業計画をたてた後に、先に学内組織(教授会)において審議し、法人本部(理事会)にて審議・承認後、新年度授業計画をもとに取り組んでいく。】 ・新年度開講授業科目の内容を科目担当教員に連絡し、シラバス作成を依頼2月末までに事務局教務宛提出依頼。 ・提出されたシラバスを各学科専任教員がチェックし、修正等を行い完成後、データをPDFにし新年度授業開始前にホームページに掲載 https://portal.kokugakuin.jp/uprx/up/bs/bsa001/Bsa00101.xhtml

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
学科により必修科目、選択必修科目及び選択科目の修得単位数に差があるが、卒業に必要な単位数は64単位と共通である。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	国文学科	64単位	○有	50単位
	総合教養学科	64単位	○有	50単位
	幼児・児童教育学科	64単位	○有	50単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：刊行物 学生ガイドブック 入学時全員に配布		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：刊行物 学生ガイドブック 入学時全員に配布		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/kousya.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	国文学科	760,000円	180,000円	203,000円	施設設備費、維持費、父母会入会金・会費、学生会入会金・会費、学会費
	総合教養学科	760,000円	180,000円	203,000円	施設設備費、維持費、父母会入会金・会費、学生会入会金・会費、学会費
	幼児・児童教育学科	790,000円	180,000円	189,000円	施設設備費、維持費、父母会入会金・会費、学生会入会金・会費、学会費

※2年次には、上記授業料・施設設備費・維持費及び父母会費10,000円・学生会費7,000円並びに、同窓会費15,000円、卒業記念品代5,000円を徴収する。

よって、国文学科・総合教養学科は957,000円、幼児・児童教育学科は987,000円を徴収することとなる。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

入学試験制度として、地元の高校生対象の奨学金制度、学校推薦奨学制度、また、入学後家計の急変により学費の捻出が困難な学生を対象とした特例給費制度など、経済的に学生をサポートできる対応を行っている。

https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/campus_life/scholarship/

少人数制のゼミ形式により学生の学力の把握及び、オフィスアワーにて学生の就学支援を行っている。また、短期留学・編入学希望者に特別授業(単位無)を行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

入学・進級時に実施する進路希望調査を基に、学生の多様な進路を実現するため担当教員による進路指導を行っている。

編入希望者に関しては、國學院大學を中心とした系列編入の指導を行っている。また、

学生の進路選択の拡大のため、進路先の開拓を行っている。

就職希望者に対してはキャリアセンターを中心とし、地域の人材を活用して職業観の

涵養を図り、地方創生を担う人材の養成を図っている。

【21世紀研究計画 第4次 学校法人 國學院大學】

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

長期休暇期間を除き、月曜日から金曜日の10時30分から16時30分まで健康相談室を開放し、常勤配置されている職員が学生支援のケアを行っている。

https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/campus_life/facilities/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.kokugakuin-jc.ac.jp/about/koutekishikin/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
年		単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
人		人	人	人	人	人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
成績評価の基準・方法 （概要）
卒業・進級の認定基準 （概要）
学修支援等

(概要)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	
学校名	國學院大學北海道短期大学部
設置者名	学校法人 國學院大學

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		22人	23人	32人
内 訳	第Ⅰ区分	11人	14人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	11人	9人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				32人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定			
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)			
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況			
「警告」の区分に連続して該当			
計			
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	前半期	後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)			
G P A等が下位4分の1			
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況			
計			
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。